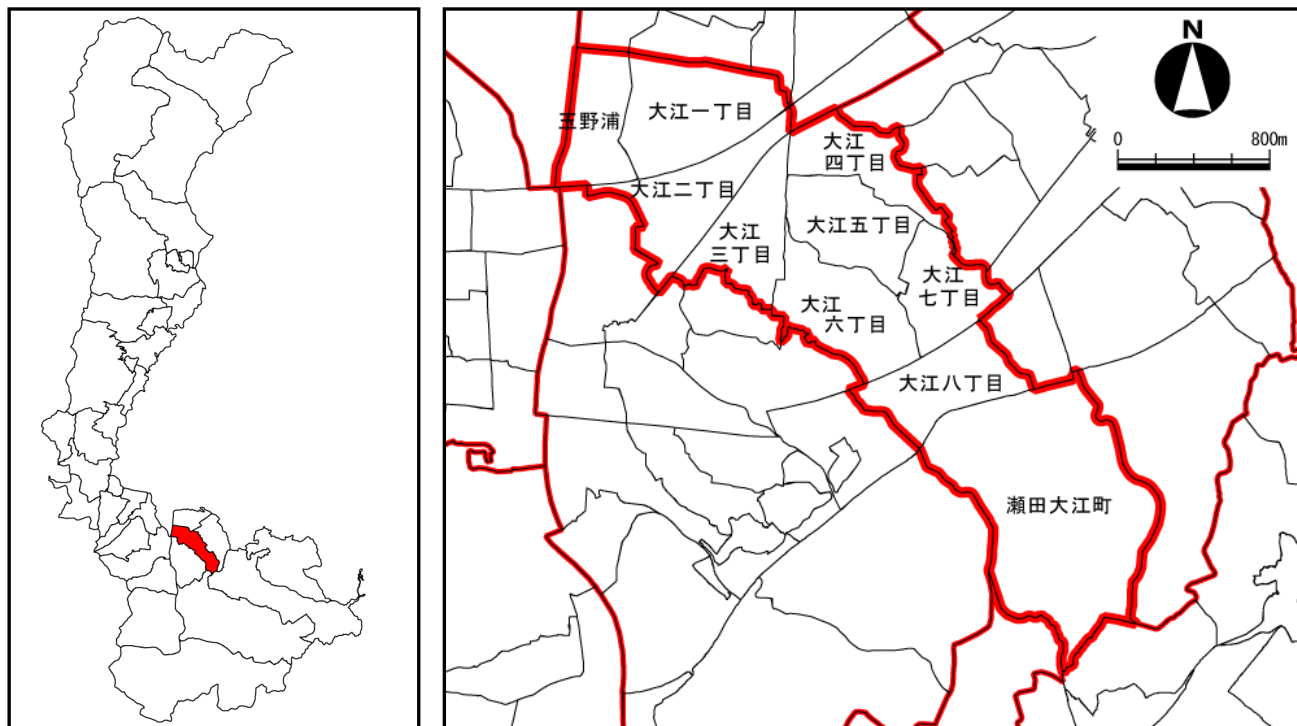


■ 学区の概況



<町丁名>

瀬田大江町、大江一丁目、大江二丁目の一部、大江三丁目の一部、大江四丁目、大江五丁目、大江六丁目、大江七丁目、大江八丁目、一里山七丁目

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

<学区の特徴>

琵琶湖八景の一つである「夕陽・瀬田・石山の清流」の東南部にあり、瀬田4地域のほぼ中央に位置している。人口が急増したことから、平成3年4月に4学区に分割され、新瀬田学区としてスタートした。

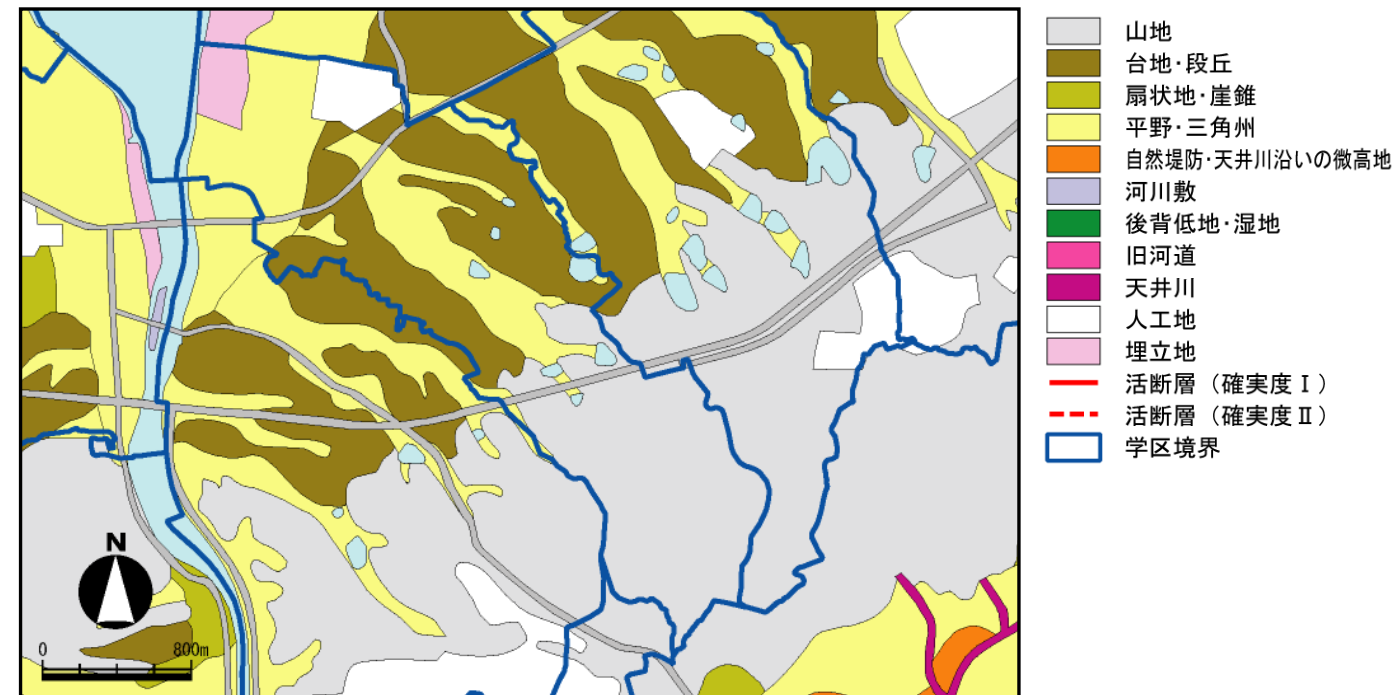
北部は国道1号沿いに商業が発達し、南部一帯は住宅開発が進んでいる。山手には大学や卸売市場が設置され、京滋バイパスが通過するなど活性化が一段と進んでいる。

当地には近江国庁跡や窪江城跡などの史跡が多い。また、芦浦街道や東海道が通過していた街道筋には昔からのまち並みの雰囲気や伝説が残っている。

また、久保江浜は古くから農耕を営む人々の生活の場であり、水運などの湖上交通に利用されていた。今は昔の湖岸である石垣がその面影を残している。

山手には灌漑用のため池が多くあり、貴重な自然である。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 瀬田地域の地形は丘陵・台地と低地からなる。低地は台地の間には低地が細長く入り込んだ谷底低地と、琵琶湖に面して広がる三角州に細分される。一般に低地は水に恵まれており、そのほとんどは水田として利用されているほか工場用地として改変されている。
- 湖岸沿いの瀬田浦地区は昭和38年に完成した埋立地である。
- 台地は中位段丘と高位段丘に細分される。この地域の丘陵は瀬田丘陵と呼ばれ、全体として南側が大戸川に急崖を向け、北側は湖岸へ向かって緩傾斜をなす傾動地塊状の丘陵である。北部の人工地は東レ株式会社の瀬田工場である。

<地質の特徴>

- 瀬田丘陵は、古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約200万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) ^(注1)	不燃領域率 (%) ^(注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
瀬田大江町	-	-	-	-
大江一丁目	70.6	87.3	42.9	5.5
大江二丁目	64.3	65.8	76.2	50.2
大江三丁目	63.6	53.5	78.5	58.2
大江四丁目	60.5	67.0	74.6	38.1
大江五丁目	68.2	58.1	80.5	24.8
大江六丁目	66.2	68.9	85.3	12.5
大江七丁目	56.0	74.2	84.4	8.4
大江八丁目	64.1	91.7	81.9	0.0
一里山七丁目	54.0	100.0	0.0	0.0
学区平均	64.7	83.4	72.6	31.0
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 64.7 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 83.4% で市平均の 93.9% より低い。
- 木造率は、大江六丁目 が 85.3% で最も高く、一里山七丁目 が 0.0% で最も低い。学区平均は 72.6% で市平均 72.7% より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、大江三丁目 が 58.2% で最も高く、大江八丁目、一里山七丁目 が 0.0% で最も低い。学区平均は 31.0% で市平均 40.3% より低い。

■ 人口の状況

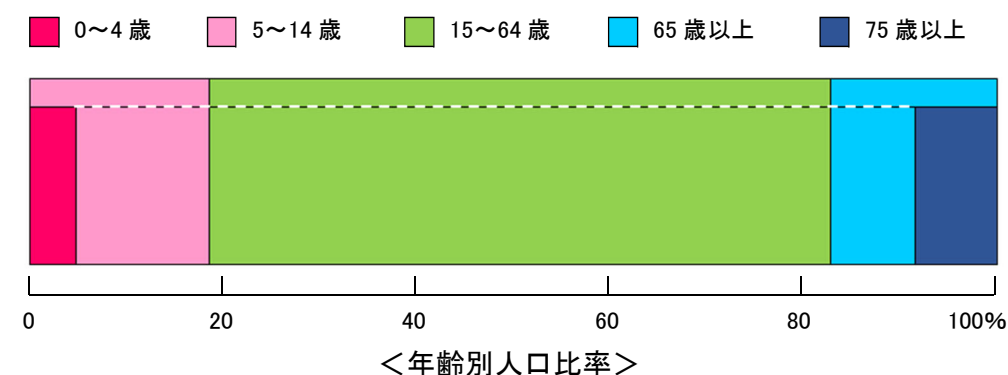
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	14,645	人		-	1
年齢別 (0~4 歳)	697	人	学区人口に対する割合	4.8	1
年齢別 (5~14 歳)	2,004	人	学区人口に対する割合	13.7	1
年齢別 (15~64 歳)	9,405	人	学区人口に対する割合	64.2	1
年齢別 (65 歳以上)	2,539	人	学区人口に対する割合	17.3	1
年齢別 (75 歳以上)	1,252	人	学区人口に対する割合	8.5	1
世帯数	6,018	世帯		-	2
1 世帯当たり人口	2.4	人/世帯		-	2
要介護認定者	513	人	学区人口に対する割合	3.5	3
身体障害者 (要配慮者)	170	人	学区人口に対する割合	1.2	4
知的障害者 (要配慮者)	28	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	201	人	学区人口に対する割合	1.4	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 学区北西部の平野・段丘部は人口集中地区 (D I D 地区) である。
- 高齢者 (65 歳以上) は 2539 人、乳幼児 (0~4 歳) は 697 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 17.3%、4.8% である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より高い。
- 要介護認定者は 513 人 (3.5%)、身体障害者 (要配慮者) は 170 人 (1.2%)、知的障害者 (要配慮者) は 28 人 (0.2%) である。
- 外国人居住者は 201 人 (1.4%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	1
土石流危険渓流 <small>(注1)</small>	2 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	2 箇所	2
土砂災害警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	5 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） <small>(注1)</small>	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） <small>(注1)</small>	0 箇所	3
雪崩危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	4
地すべり防止区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	5
地すべり危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	1
浸水想定区域 <small>(注3)</small> (0.0m~0.5m)	33,698 m ²	6
(0.5m~1.0m)	61,735 m ²	6
(1.0m~2.0m)	138,266 m ²	6
(2.0m~)	8,077 m ²	6
特に重要な水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
重要水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 <small>(注1)</small>	8 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 瀬田学区では土砂災害に関する災害危険箇所が少なく、土砂災害などの自然災害の発生する可能性が低い学区であるといえる。
- 水防ため池が多く、災害時にはこれらの水防ため池を有効に活用できるような対策が望まれる。
- 湖岸沿いの低地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域があるため、琵琶湖からの浸水に注意が必要である。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	瀬田小学校グラウンド	○	○	○		大江四丁目 2-1
	瀬田中学校グラウンド	○	○	○		大江七丁目 1-1
	瀬田幼稚園グラウンド	○	○	○		大江四丁目 3-6
指定緊急避難場所兼指定避難所	瀬田市民センター	○	○	○		大江三丁目 2-1
	瀬田小学校体育館	○	○	○		大江四丁目 2-1
	瀬田中学校体育館	○	○	○		大江七丁目 1-1
	瀬田幼稚園	○	○	○		大江四丁目 3-6
指定避難所	瀬田中学校武道場			—		大江七丁目 1-1
	(福) 東老人福祉センター			—		玉野浦 6-33
	(福) 瀬田児童クラブ			—		大江四丁目 2-60

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※(福)印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
瀬田市民センター	大江三丁目 2-1	545-2480

<警察 110>

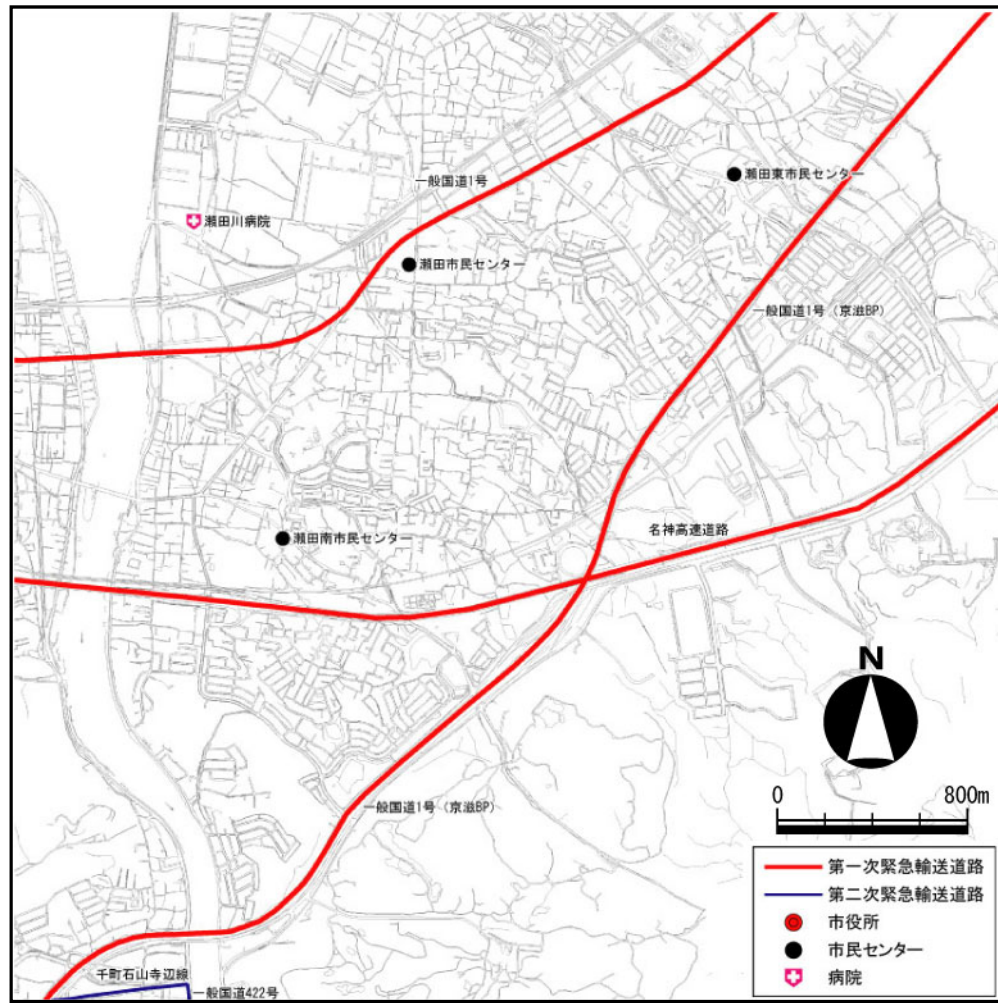
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234
瀬田交番	大江三丁目 2-25	545-3153

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
東消防署	大江四丁目 18-1	543-0119
瀬田分団	大江四丁目 18-1	543-6643



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111
病院		瀬田川病院	玉野浦 4-21 543-1441

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	3,418	11,100	1,244	823	1,655	42	30	30	131	100	108	7	5	5
ケース2	3,418	11,100	1,512	792	1,908	62	45	45	130	97	105	6	5	5
ケース3	3,418	11,100	831	896	1,279	22	15	16	195	125	146	10	7	8

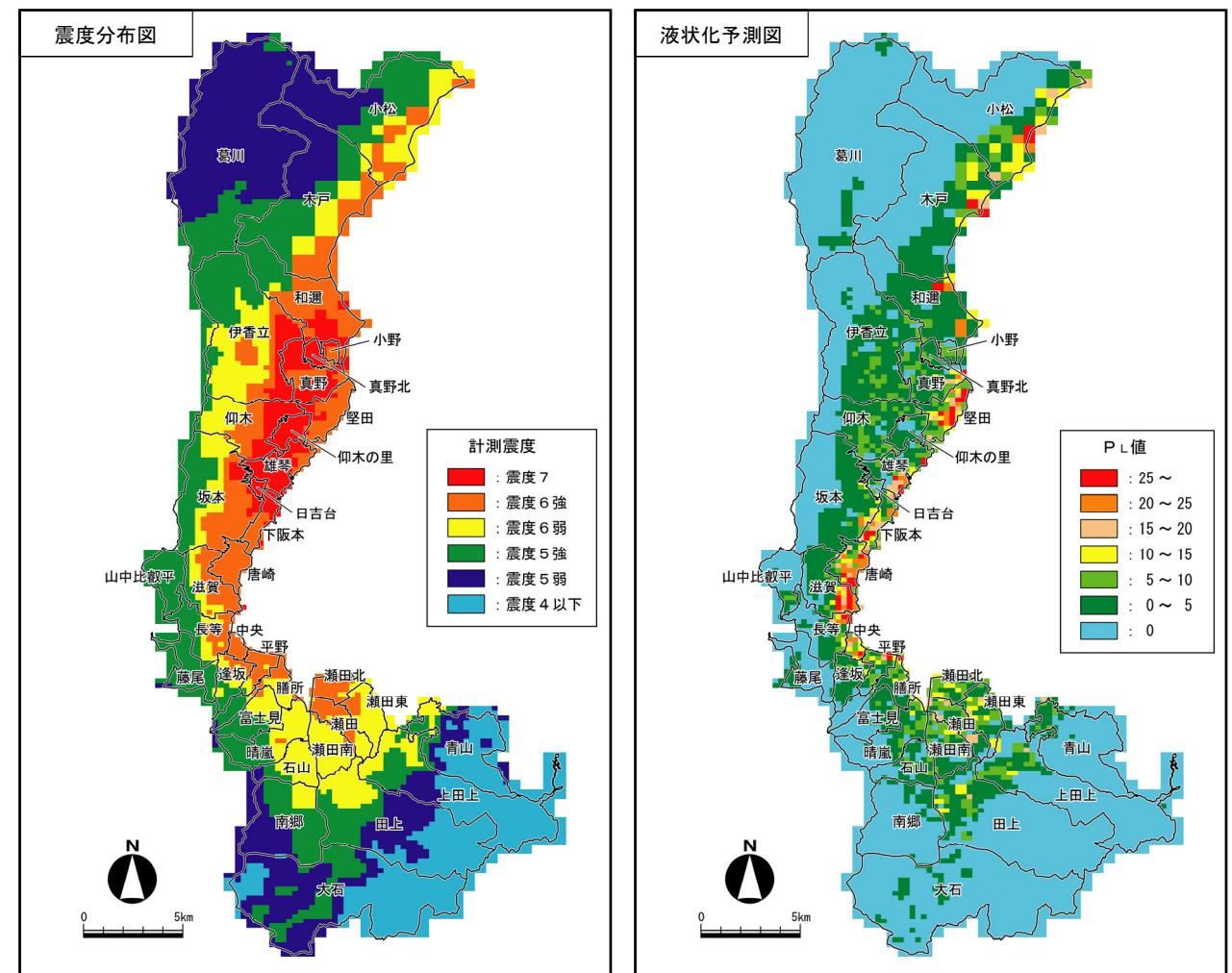
被害想定ケース	地震火災炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	1	3	4	2,129
ケース2	2	4	5	2,360
ケース3	1	2	2	1,775

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

